

同志社女子大の学生たちが、結婚式の披露宴で京都の伝統工芸品の一つである扇子を使って新郎新婦や家族の絆を強めるセレモニーを企画し、23日、京田辺市興

戸の同女大校地で実演した。誓いの言葉などを書いた三つの扇子が円になるよう飾り付ける方法で「縁満の儀」と名付け、商品化を目指す。

扇子三つ 円に飾り

夫婦

円

満に

同女大生、披露宴の儀式企画

産学連携、商品化へ

学芸学部 関口英里 授セミと、婚礼事業会社「TNCフライタルサービス」(京都市中区)が産学連携プロジェクトとして、6年前から京都の伝統産業を生かしたフライタル商品を企画開発

新郎新婦に扮し、円にした扇子を飾り付ける学生京田辺市・同志社女子大



しており、今回は3年生13人が昨年夏から取り組んだ。伝統工芸品で、「末広がり」などめでたい意味を持つ扇子を使うこと、式の流れや演出に決め、ネーミングも学生たちで企画した。

この日は学生たちが新郎新婦やその家族に扮し、ほかの学生や関係者の中で、セレモニーを実演した。一つ目の扇子に新郎新婦が署名、ほかの二つの扇子に新郎新婦が誓いの言葉を書き、それぞれ両家の家族に贈呈した。最終的には三つを広げて円にして飾り付け「縁の輪」として、夫婦や両家の円満を表した。

ゼミのプロジェクトリーダーを務めた藤井志歩さん(20)は「披露宴の儀式的意味合いや扇子について一から調べるのは大変だったが、形になってよかった。オリジナル婚がはやっており、新郎新婦さんに幸せになるように行ってもらえれば」と話している。今後、同社で商品化を検討するという。